

## 目黒区在宅医療・介護連携に関する研修会（11月26日）の様子

講義テーマ：「在宅での看取り ～多職種間の連携について考える～」

講師：今井 博彦 氏（今井医院院長）

会場：目黒区医師会館 3階講堂

日時：平成27年11月26日（木） 13時～15時



研修参加者：医師・歯科医師・薬剤師・病院（退院支援看護師）・訪問看護ステーション看護師・居宅介護支援専門員・訪問介護員・地域包括支援センター職員など78名の医療と介護の専門職の方々が集まりました。

研修会は、今井講師による、看取りの事例を通しながら、多職種間の連携のあり方や他の職種へ期待したいことについての講義がありました。その後、事例に関わった支援チーム（訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャー）の方から、患者ご本人様やご家族様への対応や、支援で心がけたことについての報告がありました。



会場参加者と講師・支援チームとの意見交換では、在宅での看取り時期における課題や連携のあり方が話し合われました。「在宅での医療サービスが、病院に匹敵するだけのサービスをしていくためには、多職種や医療機関同士の緊密な連携が大切。」「患者さんは、医師や看護師に対しては、気丈にしている場合があるが、一方、介護職の方には、困っていることや悩みを打ち明ける場合がある。情報共有のためには、状況を素早く医師や看護師に伝えていくことが大切。」など、活発に意見交換が行われました。

また、今井講師からは、「患者様やご家族様の信頼関係の構築には、傾聴が大切なこと。」「今後、高齢者の看取りが多くなる中で、看取り後、ご家族を失った方を支えるための、グリーフケアについて、ますます必要となること。」などのお話がありました。



区では、26年度から「目黒区在宅医療・介護連携に関する研修会」を開催し、これまでに、4回夜間（19時～21時）に行ってきました。「昼間の開催をしてほしい」というご意見を参加者からいただき、今回は、昼間の開催を実施しました。

また、目黒区医師会のご協力をいただき、研修会場は、目黒区医師会館で行いました。28年度からは、地区ごとの地域包括支援センターで、こうした研修会を行う予定のため、中央地区での開催は、今後のモデルケースとして意義深いものとなりました。